



# なきごえ



1989

12

大阪市  
天王寺動物園協会

熊野の山のカラス



宇江敏勝

カラス(ハシブトガラス・ハシボンガラス)は身近にありふれているので、あまり注目されないが、なかなか面白い鳥だと私は思っている。

毎朝、私は人の顔が見分けられるほどの頃合いに外に出るが、ち

ょうどカラスも鳴きはじめる。野鳥の中でも、いちばん早起きなのがカラスで、ほかの鳥たちもその声に目覚めさせられるのではないだろうか。

ある朝もジョギングをしていると、一羽のカラスが杉の梢にとまって鳴いていた。そこで私も走りながら、カー、カー、と声をまねてみた。するとカラスはさっと飛び立って、おなじ方面へ移動し、また木にとまって鳴いた。私もそれに応えて、カー、カー、と叫びながら走る。カラスもまた頭上を追いかけてくるのである。だいたい数十メートルおきに道ばたの木や電柱にとまりながら、つごう五百メートルほどにわたって、カラスは私にくっついてきたのだった。

そいつは私のなき声をいったい何と思ったのだろうか。それ以後も私は、ときどきカラスに声をかけてみる。ただ、意味もなく叫ぶのにくらべると、カー、カーのほうに大きな反応を示すように思われる。しかし、ジョギングにつき合ってくれたのは、一度きりのことである。

カラスは知恵のある鳥だともいわれる。

山仕事をしていた、そのへんに置いた弁当をとって食われたことがある。その場合のカラスは、背負袋の中から弁当をとり出し、包んでおいた風呂敷を

ほどいて、中味を平らげていた。背負袋の口は、カラスの力ぐらいではほどけぬよう、しっかりと固く結んでおかねばならない。

〈カラス鳴きが悪い〉と凶兆として言われる。実際、たくさんのカラスが群れて、異様にやかましく鳴きさわぐことがある。

山小屋に泊まり込んで働いているときなど、そのようなカラス鳴きに不安をかき立てられる。とくに里からの情報が届かない所だと、もしかして不幸なことでも、と不吉な想像をしてしまうのだ。あとで聞いてみると、じつはその日に里で誰かが死んでいた、などということにもなる。そのようなときのカラスは、たしかにいやな鳥である。

ところで、カラスはしばしば神との関係において注目される。とくに私どもの地方においては、熊野三山の使いとして畏敬されるのである。

三山では「牛王宝印」といって、神符がつくられ、災難除けの護符や、また願いごとや誓文を記すものとして知られる。この神符は、カラスを数十羽から百羽を奇怪な絵柄にあしらって、墨刷りにしたものである。

しかし熊野においても、カラスは農作物を荒らすから殺すことだってある。その場合“四八羽の外”、と昔は言ったともいう。(浜田栄造『熊野よいとこ』)四八羽というのは、新宮の速玉大社の牛王宝印にあるカラスの数である。殺すにしても、神をはばかったのだ。

また古老たちは“権現ガラス”とも言うが、そこにも熊野権現の使い、という意味がこめられている。権現ガラスも近ごろ少なくなったわ、などと聞かされる。

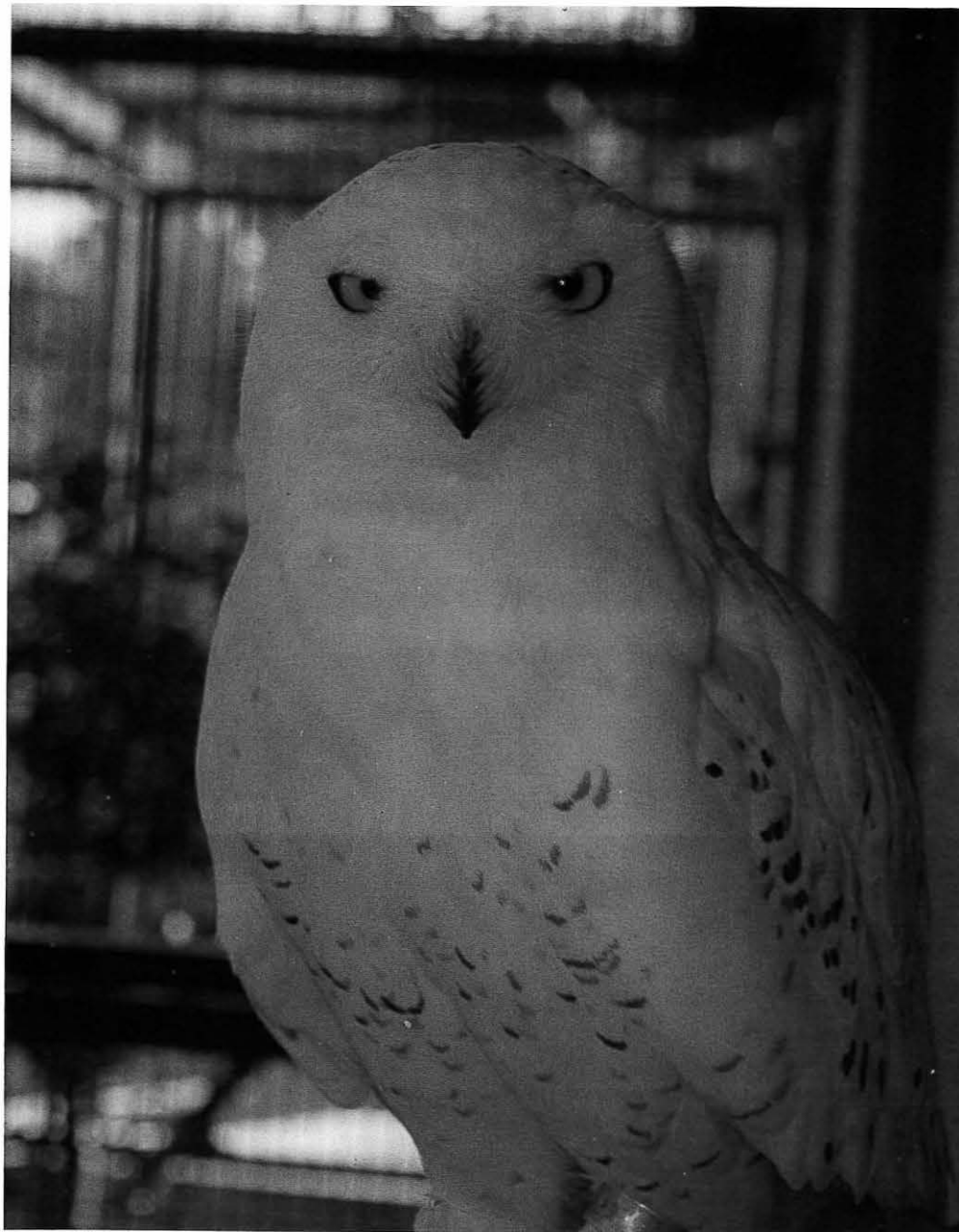
カラスが減少した原因は、山の田畑が荒れて食物がなくなったせいだろう。また森林も杉や檜ばかりが植えられて、天然林が少なくなったためとも考えられる。(作家・林業)

なきごえ12月号もくじ

動物と私 ..... 2
“レニングラード動物園からきたシロフクロウ”... 3
動物園グラフ・動物園日記 ..... 4・5
クロサイの繁殖作戦 ..... 6・7
白神山地の動物 ..... 8・9
キジの飼育と繁殖雑感 ..... 10
動物園ニュース ..... 11

表紙の写真説明

レッサーパンダ Ailurus fulgens
ヒマラヤから中国南部の標高1800~4000mの森林や竹林に棲み、竹が主食の雑食性動物です。森林伐採のため、生息数が年々減少しつつあります。(撮影：飼育課 森本 委利)



“レニングラード動物園からきたシロフクロウ”

北極圏で繁殖し、ユーラシア大陸、北アメリカ大陸に南下して越冬し、まれに日本でも北海道で記録される白色で大型のフクロウです。(撮影：飼育課：森本 委利)

# 動物園グラフ



レッサーパンダのお越し入れ

11月6日午後、待ちにまったレッサーパンダがやってきました。当園にとっては約30年振りのお目見えです。



オープニングセレモニー

11月8日。上海動物園顧金根副園長他3名の上海動物交流団並びに市関係者、めぐみ幼稚園児等の列席のもとレッサーパンダとクロトキの贈呈式が行われました。

## “レッサーパンダがやって来た!!”

大阪市・上海市友好都市提携事業の第7次動物交流として、上海動物園からレッサーパンダ1番とクロトキ4羽が贈られて来ました。

今回は特にレッサーパンダ来園の様を追ってみました。(撮影：飼育課・中川 哲男)



初めてのお出まし

オープニングセレモニーのあと、屋外運動場へはじめてのお出まし、何かと落ち着かない様子……。

なきごえ25(12),1989

## 9・10月の動物園日記

- 9/27. シシオザルのオスの子供が1頭生まれました。
- ホッキョクグマの出産準備を始めました。
- 10/1. ボイラーの火入式を行ないました。動物代表として、チンパンジーの4歳になるオス“リッキー”が動物を代表して点火を行いました。
- 10/2. 「獣舎の安全管理」と題して労働安全研修会が開催されました。元名古屋市東山動物園長の浅井健氏の講演がありました。
- 10/4. ヤマネコ類にワクチン接種を行いました。

- ブラックバックのメスの子が生まれました。コアアラを初めて屋外運動場に出しました。
- 10/5. ムササビを1頭保護しました。
- 10/7. 保護により元気を回復した野鳥たち6種11羽を箕面方面で自然復帰させました。
- 10/9. 新しく来園したクロサイのオス“トミー”とメス“さっちゃん”を寝室内で初めて同居させました。
- 10/11. オウサマペンギン、マカロニペンギン、イワトビペンギン計3種14羽を冷房舎から屋外展示場に移動させました。
- 10/12. ソ連・レニングラード動物園からの動物贈呈式が開催され、同園長のアンドリュエビ

なきごえ25(12),1989



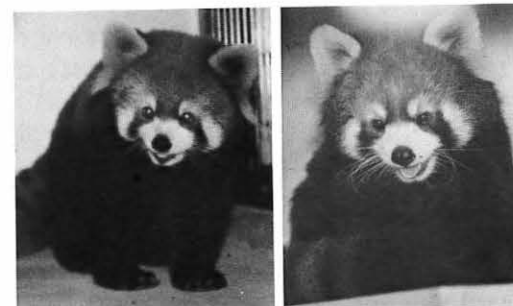
新居のレッサーパンダ舎全景

鉄筋コンクリート造、平屋建て  
動物舎総面積 225.75㎡  
総工事費 5,823万円



レッサーパンダ舎の内部

夏は冷房、冬はフローヒーティング、明るく、巷のワンフンホテルよりもgoodよ!!



レッサーパンダのカップル

スリムな私4才おすです。ちょっと肥えている私7才めです。今後ともよろしく。



新居の点検とお散歩

早速、新居の点検……この辺はどんな具合になっているのかなあ?クンクン/クンクン/変な匂いがするぞ!!

- ン氏より、シロフクロウとカラフトフクロウが各々一番、当園に贈られました。
- 10/15. 秋の動物園まつりが閉幕しました。第54回動物のお話とスライドの会「1989年どんな動物が生まれたのかな?」を催しました。
- 10/16. クロサイのオス“トミー”とメス“さっちゃん”を運動場で初めて同居させました。夏の間屋外に出して展示していたアルダブラゾウガメとヒョウモンガメを、体重測定後、爬虫類舎に戻しました。
- 10/18. 倉敷養護学校の生徒たちの修学旅行に当園で特別にかわいい動物たちの触察してもら

いました。

- 10/21. クロサイのトミーがさっちゃんから角傷を受けたので、治療を行いました。
- 10/22. ヒクイナを1羽保護しました。レッサーパンダの飼育会議を行ないました。
- 10/23. タヌキを1頭保護しました。
- 10/27. チュウゴクオオカミ(黒変種)のメスが、起立せず歩行をきらうため、治療を開始しました。
- 10/27. 日本動物園水族館協会主催の平成元年度第2回近畿地区動物園技術者研究会に、当園職員が出席し発表しました。

# クロサイの繁殖作戦

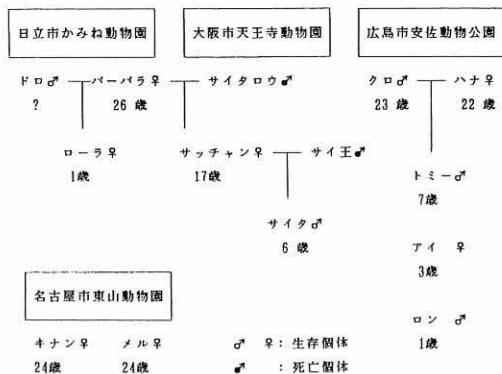
なぎごえ25(12),1989

## § はじめに

クロサイはかつてはサハラ砂漠以南のアフリカ全土に広く分布していたのですが、角が解熱剤や強壮剤の漢方薬として珍重されたり、あるいは短剣の装飾用として重宝されることから密猟が絶えず、昭和35年には10万頭も生息していたのが、昭和55年までには1万5千頭ほどに、さらに現在では3千頭そこそこにと激減してしまいました。それもアフリカのごく限られた地域、ジンバブエ、南アフリカ、ナミビアなどの南部アフリカのごく限られた地域に見られるだけになってしまいました。もちろん、現地アフリカでもこのクロサイを絶滅の危機から守るため、密猟の監視に重点をおいて様々な努力がされています。角を取るためだけに殺されるのなら、生きてその角を切断してしまえば密猟もされないうまいだろうと、角の切り落とし作戦などという新しい試みがナミビアの野生動物保護局では実行に移されています。しかしクロサイ保護のためとはいえ、あのシンボルともいえる角を失ったサイを、アフリカの草原に放していくことがいいことなのかどうか、大きな疑問が残るところです。

一方、飼育下でもこの絶滅に瀕するクロサイをなんとか繁殖させて増やそうという努力が続けられています。現在世界の動物園では46カ所オス55、メス75、計130頭のクロサイが飼育されていますが、その内の半数以上、73頭は飼育下で繁殖した個体なのです。飼育下での繁殖努力も功を奏してきているようですが、まだまだ余断は許しません。

さて日本では今年の7月までは表①のように4カ所、日本でのクロサイ飼育状況(1989年7月現在)



所の動物園で12頭のクロサイが飼育されていました。わずか12頭、繁殖が期待できるペアはわずか2ペアと大変厳しい状況にありました。それを打破すべく、昨年にクロサイ繁殖計画が立てられ、関係方面の種々の努力で今年それが実現へと向かいました。日本でこのような希少動物のための繁殖計画が実行に移されたのは、実はクロサイが初めてのケースであり、このテストケースの成功如何では今後の他の希少動物の繁殖計画作成にも重大な影響を及ぼすもので

た。このビッグプロジェクト、クロサイ繁殖作戦とはどんなものなのか、ここでその概要をご紹介しますことにしましょう。

## § 天王寺動物園における飼育状況

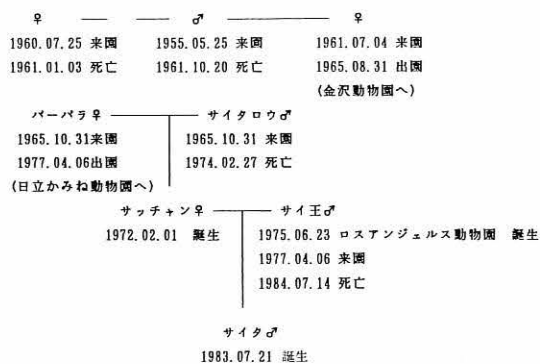
天王寺動物園には昭和30年にお目見えしたオスが最初のクロサイで、2頭のメスとペア形成が試みられましたが、子室には恵まれませんでした。続いて昭和40年に来園したのがオスのサイタロウとメスのパーバラで、この両親から昭和47年に生まれたのが現在も飼育中のメスのサッチャンです。父親のサイタロウが昭和49年に亡くなった後は母娘だけで飼育していましたが、次の繁殖のために入手したロスアンジェルス動物園生まれのオス、サイ王の来園に伴い、母親のパーバラは日立市のかみね動物園に嫁入りし、サイ王とサッチャンの新カップル誕生となりました。

この2頭は大変仲のよいペアで昭和58年に待望の赤ちゃんが誕生しました。これは日本では初めての動物園三世の誕生でもありました。生まれた赤ちゃんはオスで、サイタと名付けられ、一時、サイ王、サッチャン、サイタの親子3頭の仲睦まじい光景が入園者の人気を呼びましたが、好事魔多しというのか、残念にもサイ王が感染症で急死し、母子の2頭になってしまいました。

以来2頭だけで飼育してきましたが、今年でサイタも6歳を迎え、これ以上同居を続けていけば、近親繁殖の心配もでてくるようになってきました。

(表②参照)

表②、天王寺動物園のクロサイの飼育経過



## § 日本でのクロサイの飼育状況

日本で初めてクロサイが飼育されたのは昭和26年7月のことで、上野動物園にオスが1頭入りました。以後、神戸や名古屋などの動物園にも入り、昭和39年には神戸市立王子動物園で日本初の繁殖に成功しました。以来、国内では17頭の子供が生まれ育っています。

表①は繁殖作戦が実行に移される前の状態ですが、天王寺、広島、名古屋、日立の4カ所飼育されていました。日立市かみね動物園にはサッチャンの母親のパーバラが嫁いだことは前述しましたが、こ

なぎごえ25(12),1989

でドロというオスとうまくペアを形成し、昨年待望のメスを産みました。広島の安佐動物公園では過去7頭もの繁殖に成功し、クロ、ハナのペアとそれらの子供3頭と計5頭の大所帯で、特に7歳を迎えるトミーが立派な大人のオスに成長し、父親のクロとの闘争が懸念されるようになってきていました。

名古屋の東山動物園ではメス2頭だけで飼育しており、オスの入手を希望していました。

## § クロサイ繁殖計画

各動物園それぞれの事情がありますが、この貴重なクロサイをなんとか健全に繁殖させていこうという点では一致しています。折しも日本動物園水族館協会(以下、協会)では昭和63年に種保存委員会を発足させました。この設立の目的は絶滅の危機にある希少動物の飼育実態調査を行うと共に繁殖に関する資料、情報を収集し、近親繁殖をさけるために血統を維持管理し、繁殖のための動物の移動、貸与などの調整、斡旋、勧告などを行うものです。このためには各動物園間の密接な相互協力が必要不可欠なことは言うまでもないことです。

クロサイの飼育に問題を抱えている天王寺、安佐、東山の3園で十分な話し合いがもたれ、協会の協力を得て、このクロサイの繁殖計画が次のように策定されました。

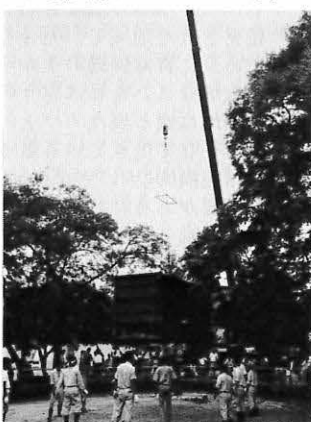
①天王寺のオス(サイタ)と安佐のオス(トミー)を交換する。

②安佐はサイタを東山へブリーディングローンで貸し出す。

これにより天王寺は近親繁殖の恐れはなくなり、東山はオスの入手により繁殖への期待が持てます。また安佐は父親と息子の闘争を回避することができます。まさに三方一両得のようすばらしい計画です。

## § 大移動作戦

しかし一口にクロサイを移動するといっても、1トンを超す大形動物だけにその準備は大変でした。輸送用の檻とあわせれば3トンにもなる重量物だけに、これをつり上げるためのクレーン車や運搬用のトラックも必要です。これらにかかる費用もかなりなものですし、捕獲準備、日程の調整、さらにはこのクロサイはワシントン

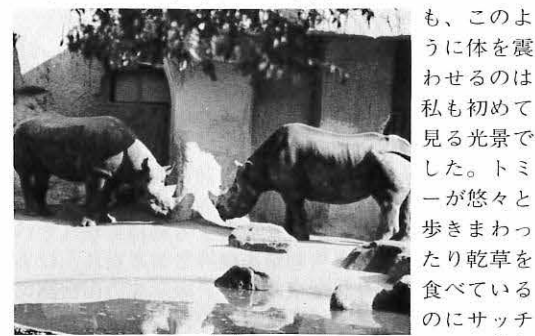


クレーン車を用いた搬出作業

条約の附属書I表に該当する動物ですので、国内の移動についてはあらかじめ国内取引規制法に基づいて環境庁にその許可を求めなければなりません。

それらの準備、手続をふまえて、まず天王寺からサイタが搬出されたのは8月17日のことでした。1週間前から入口に輸送檻を設置して檻に慣らすことから始まりましたが、サイは大変神経質な動物だけに、当日、輸送檻に無事収容し、名古屋へ向けて送り出した時は正直いってほっとしました。サイタが去ってからサッチャンが心なしか寂しげに見えたのは私の気のせいでしょうか。

9月18日、いよいよ安佐からトミーが運ばれて来ました。サイタよりも1歳年長だけに、クレーン車で計測した体重も1400kgと、サイタよりも200kg重く、まだ子供っぽさの残っていたサイタよりも大人の風格が感じられました。サッチャンの隣の部屋に収容し、しばらく檻ごしの見合いが始まりました。相性も良さそうなので、10月16日、屋外の放飼場で初めて長時間の同居を試みました。最初は威勢よくみえたサッチャンが、トミーが近付いて来ると急に緊張感をみなぎらせ、そのうち体を震わせ始めたのはびっくりしました。寒い日に身震いすることはあつても、このように体を震わせるのは私も初めて見る光景でした。トミーが悠々と歩きまわったり乾草を食べているのにサッチャンは放飼場の隅で震えながら突っ立ったまま。「サッチャン、ガンバレ」と思わず声をかけたくなったほどです。



しかし日が経つにつれ、サッチャンの緊張もほぐれてきたのか、震えも減り、2、3度、角の突きあわせや追いかけあいにはありましたが、2頭を隔てていた距離はちぢまってきました。いずれ2頭が寄り添い、仲のよい夫婦ぶりを見せてくれるものと期待しています。天王寺と東山で赤ちゃん誕生のニュースが聞ければ、この繁殖作戦は大成功といえるでしょう。

## § おわりに

いろいろな障害はあったもののどうか第一段階は乗り越えることができました。第二段階は赤ちゃん誕生にかかっており、これはなんといってもクロサイにまかせねばなりません。これをこえることができれば、国内での将来計画へと展望が開けます。

今回の繁殖計画には安佐、東山の協力はもちろん、協会、種保存委員会、さらにはクロサイ国内血統登録担当者でもある安佐動物公園の大津晴男飼育係長及び繁殖計画調整者の増井光子・井の頭自然文化園長に大変お世話になりこの誌面をお借りして厚くお礼申し上げます。(飼育課:宮下 実)

鎌田孝一  
(秋田・白神山地  
ブナ原生林を守る会理事長)

白神山地とは

生態系の豊かな森白神山地は、昭和57年の横断林道の建設と、森林開発の問題が生ずるまで、静かな秘峡の山として古代の息吹を残していたのである。

秋田・青森両県の西側に広がる凡そ5万ヘクタールにも及ぶブナの美しい天然林であり、ブナ帯文化の発生の森でもあった。

1982年(昭和57年)4月広域基幹林道「青秋線」(以下青秋林道)が秋田県の本海側の八森町から両県境ぞいに千メートル級の山並を削り、青森県弘前市の南西西目屋林に直結すること、その週辺のブナ林の伐採を目的とした工事計画が発表されたのである。以来7年白神山地は全国に知れる地位?を獲得したと云える。



白神山地 5月のブナ林

しかしその林道は直接関連性のない二町(青森県鯉ヶ沢町、秋田県藤里町)の水源かん養保安林内を、県境分水嶺と云われる地帯を、通過する予定になっており、北と南の生態系を分離する経緯となっていたのである。貴重な生態系を保って来た森は、にわか騒々しくなり、環境調査や、大学等の山岳部による踏査、専門研究、釣マニアの横行等々、秘峡の存在が消えつつあることも事実である。

動物達の楽園は?

白神山地には貴重な鳥類、哺乳類が棲息していることは、それらを研究する学者間ではわかっていた。勿論その山地で「またぎ」として生計を立てていた過去から、地域の人々は神より預かっている森として大事に餌を続け、得た獣を前に神に感謝してから頂いたのである。

その中で最も大型の動物では、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンザル等であろう。ニホンカモシカは国の天然記念物として保護されているが、やがてツキノワグマも数の減少にともなって、天然記念物的存在になるのではなからうか、とそんな気がしてならない。

その原因は白神山地の殆どが国有林であり、その地域の伐採の広がりからである。それ以外にも原因と考えられるのは、三年程前の秋田県のみで撃たれたクマの数は1年間で370頭余に及んだこと(以後撃たれた頭数はごく僅か)ブナ林を最大の居住地域としている彼らにとって、その権利をうばわれたことにつながる。

ブナの実の豊作のときは(他の木の実は豊作になる場合が多い)里へ出ることもないが、不作の時は生きてゆくために、食糧を求めるために出て行かざるを得ないのである。結果は害獣だといって撃たれ命を落とすのである。

るを得ないのである。結果は害獣だといって撃たれ命を落とすのである。

広大なブナの森があった時は、沢に降り、サワガニやイワナを食べ、どうにか越冬していた。しかし現在のように林道が奥地にまで進み、森林の開発や山菜取り等の人々が入山し、彼らの生活を脅やかす状況が続いているのも事実である。

更には、動物との出合が多くなり、開発する人、被害を受ける人々と、それぞれ立場が違って、罪もない人々がそれら動物達の被害を受ける事態が生じて来ていることを重視しなければならない。

クマゲラとイヌワシ

大型の鳥類では、イヌワシ、クマゲラ(天然記念物)シノリガモ、クマタカ、ヤマドリ等が山地に棲息している。イヌワシについては繁殖が幾度となく確認はされているものの、営巣地の確認はいまだ不明である。しかしそれを無視してまでも、位置確認を急ぐ必要はないものと思ふ。

種の永続を願う意味からも大切なことである。時として報道され多くのマニアが入り込むことの危険の方が大きい。それより白神山地の空を雄飛する姿を確認した方が、賢明なものと思ふ。

学者にしてみると追求し研究したいものと思ふが、他の発見された地域で、十分な研究成果が得られることであり、資源保護の上からも、そっとしておくことも大切なことと思ふのである。

白神山地に残る現在のブナの森は、50%弱。その中でかろうじて生きている多くの生命態、それは貴重な地球規模的(大げさに云うと)自然として残しておく必要がある。

本州では唯一ヶ所、クマゲラの棲息地として知られた秋田県森吉山周辺も、伐採とスキー場の問題でその姿の確認は近年聞くことが出来ない。それに変わるかどうか、白神山地青森側で2~3年前からその姿が確認されるに至った。そして今年5月5日、秋田県藤里内駒ヶ岳周辺でクマゲラの姿を映像にとらえることに成功し、又隣接の田代岳では「つがい」のクマゲラが確認されている。いづれも森林の保護保全された地域内で、かつては生息していたのが、再度舞戻ったのであろう。

ブナの原生流域地帯でも、多くの採餌痕が発見されているものの現地に入ることの困難から、姿の確認



小岳頂上より西側↑ 東側↓



白神山地冬のニホンサル

1970年(昭和45年)冷水岳(1043m)県境附近まで延長された林道による皆伐の進行は機械器具の発達にもなって早いスピードで広がっていった。その頃、良質のブナ林として安住の地であり、最適生活圏内500ヘクタール余をクマゲラはわがものにしていただろう。伐採によって追われたクマゲラは(当時営林署の労働者はクマゲラの存在を知っていたが、口どめされていたようである)駒ヶ岳の北東、岳岱に移動したと思う。その痕跡は、岳岱に林道が進み、上下二本の林道で、はさまれた状況になって後、その営巣木の確認と云うことで判断したのである。

岳岱そのものの保護運動の中で、クマゲラの営巣木が確認されていたならば、と悔まれてならない。彼等はこの地で子育てをしていたであろう。

巨大なヘビのように曲りくねって進む林道は、再び彼らをこの地から追いやってしまったのである。

1978年(昭和53年)には駒ヶ岳1158mの北、藤駒湿原の近くまで林道は到達。一方岳岱の下を進んだ林道は、北東の沢真名子沢に入り、1988年(昭和63年)には真名沢本流の末端まで到達しその週辺一帯秋田県側県境附近の伐採が進んだのである。



そして今年、岳岱、駒ヶ岳、藤駒湿原、冷水岳の一角に残されたブナ林に参戻ったクマゲラ、それは、行き場を失いかけていた種として受けとめなければならないものと思ふ。そう思わざるを得ない状況下に彼らを追いやったことの責任である。

原生流域に入っていけないクマゲラの様子から判断すると、その地域には過去から永々と先住のクマゲラが居るものと判断せざるを得ない。何のために何の目的のために追われなければならないのか、クマゲラには判っていないであろう。冷水岳から身を秘そめて以来10数年、かつては白神山地の各地にその生息する姿を見ていた「またぎ」の人々も、動物の種の減少は伐採の影響にほかならないといっている。

初めて野鳥の姿を映像にとらえ、しかも貴重だといわれていたクマゲラの鳴き声は、あまりにも悲しく聞こえてならなかった。

彼らにも生きて行く権利があり、そして私達人間もその権利の主張をする。人間も過去から現在まで自然の中から生活を得、そして今日の繁栄を築いて

認は得られていない。

さて藤里町の白神山地内のクマゲラの足どりをたどって見ることにしよう。

来た。その恩恵を忘れてはならないものと思ふ。

種の滅亡をふせぐために

ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンザル等はせばめられた居住地域、食域地域確保の為、里山に移住し、或いは移動を繰り返している。

カモシカの場合は、まさになわ張りの関係から、里山に定住し、時には、農地、民家に出没し時ならぬ訪問客に玄関を驚く状況さえ現われている。戦中の、奥地開発が進むことのなかった時代には、豊かな森の中での生活があり、戦後のブナは木で無いと書く林野行政の拡大造林計画のもとに、広範囲に渡って東北の山々のブナが切り出されていった。

戦後の復興も確かなことながら、それ以後も止めどけない勢いが山地開発となったのである。



ニホンザルもかつては3万ヘクタール以上の白神山地内を横行していた。

ブナ林の伐採面積の広がりによって失われた分、里山に降ることを余儀なくされ、三群が南北に(秋から冬期にかけ)移動するようになった。やがて農地に被害が出るのでは、と心配していたことが、現実となって、青森県のりんご畠、秋田県の大田畑にそれぞれ被害が出はじめた。彼らは集団暴行?を罪もない人達の生活の場に追いつつある。特に雪の多い山地、木のない山地は移動を困難とするばかりか、身の危険を考え歩こうとしない。更に餌となる樹種の若木は雪にうもれてしまう。里山に入ることによって、多くの食用となる樹皮(イタヤカエデ、ヤマグワ、ササ等)が多く、子育てにも最適と思つたのであろう。1978年(昭和53年)3月以降、毎年民家の近い里山で彼らの姿をとらえること(カメラで)が多くなった。

こうした動物達の移動は何を意味するものなのか。何故このような事態になったのか。国有林管理の林野行政の中では、クマゲラ採餌痕

自然の生態系については、何等調査もなく、営利、独立採算の、営林署と云う出先機関が、国土の保全を棚上げしての施業によるものと思われてならない。

白神山地ブナ原生林最少限度、生態系保護の面から、16,000ヘクタールを残すことは、後世の子孫の為の財産であり、種の滅亡をふせぐ最少限度の森であり、資源保護にもつながる文化財的存在をも意味するのである。人間も自然界のその生態系の一部として。



## キジの飼育と繁殖雑感

なきごえ25(12) 1989

ひとことに「キジ」と言っても皆さんは世界中にどれぐらいの種類がいると思えますか？キジ目の分類は、合計74種266属もいるのです。

私達が日本の野山で見かけるキジの仲間、ニホンキジ、コジュケイ、ヤマドリ、ウズラでしょうか。そんな彼らの生活の場は地上です。木の上に止まる事はあまりなく、一日をテリトリーの巡回と餌さがしについてやっています。春から夏にかけて繁殖し、秋には、冬にそなえて多くの餌を食べなければ、厳しい冬を越えていくことはできません。

彼らを飼育、そして繁殖させるためには、生活サイクルを熟知しておく事が重要です。食べるとしても何を食べているのか？どんな所に住んでいるのか？どこに巣を造り、そしてヒナをどのように育てていくのか？疑問は湧き水の様に次から次へと出てきます。しかしどんな疑問も、答えは彼らが出してくれるのです。だから、飼育担当者にはその答えを見のがさない目と耳をもつ事が重要です。

現在、天王寺動物園には、26種類のキジの仲間が飼育されています。この中でちょっと変わった習性の鳥がいます。それは、ヤブツカヅクリという鳥で、この鳥は1979年6月に姉妹都市のオーストラリア・メルボルン市と提携を結んだのを記念して来園しました。この鳥は、地上に落ちてくる枯葉や小枝を集めて高さ1m程の塚を造って、その発酵熱を利用して卵を孵化させます。もちろん繁殖させるには自然で産卵されている状態と同じ状態を造ってやればいいのですが、檻の中では、なかなか自然と同じ状態を造るのは困難です。そこで、産まれた卵を、塚の中から掘って取り出し、ふ卵器という卵を孵化させる機械の中に入れてやる訳です。天王寺動物園では過去には孵化の実績があります。しかし、私が初めて担当した今年は、卵は産んだのですが、一羽もヒナがかえらず、私の敗北という結果に終わってしまいました。とてもくやしくて、自分の観察力や知識のなさに少し自信がなくなってしまいました。でも来年こそは、きっと皆さんに元気なヒナをお見せできる様、研究をかさねていきたいと思っています。

さて、今年初めてキジ舎を担当して感じた繁殖、飼育についての少し奥深い所をお話ししましょう…と言ってもなにせ私も初めての体験なので、読者の皆さんのお気にめすかどうか心配ですが…。今年の春、いよいよキジ達が産卵するシーズンが来ました。ふ卵器は、産卵したらすぐに入れられるようにあらかじめ温度を37.6度湿度を68%にセットしておきました。さあこの時期あちらのキジもこちらのキジも次々と卵を産みはじめます。産卵された卵も、有精卵と無精卵があります。もちろんヒナがかえるのは、有精卵だけです。つまり有精卵を産んでくれない事には、話にはなりません。この段階ですでに、無精卵しか産まなかったキジがいました。卵を産むキジはまた来年に期待できるのですが、しかし、その卵すら産まなかったキジがいたのです。これには頭を痛めました。そう、彼らは、卵すら産む状態になかったのです。産卵という繁殖行動にうつれなかった何かの壁があったという事になります。その原因が、居住空間にあるのか、食べる物にあるのか、その鳥

そのものが悪いのか、と言うことになりますが、一度うまく行かないと一年間またないと、次の結果がわからないものなのです。そのため記録というのが非常に重要になってきます。前年の失敗を2度とくり返す事がない様にするためです。私にとって今年の記録はこれからの基礎になる訳ですから、書き渡らすことなく記入しました。この記録は私自身の経験としてこれからもずっと積重ねていきたいと思っています。

いよいよ、卵がふ化し始めますと、ひなの餌づけをしなければなりません。野生では親鳥が教えるわけですが、人工的に卵をかえしていますから、人間が教えなくてはなりません。ヒナはとてもかわいいのですが、餌を食べなければ死んでしまいますから、かわいいなどと見とれているわけにはいきません。餌づけからしばらくすると体が日を追うごとに大きくなり、羽が伸び、それぞれの種類の特徴が出てきて、飼育する側に安心と喜びを与えてくれます。この時期が一番うれしく思い、また、飼育担当者としてまた一人の人間として命の大切さを痛感しました。現在、ヒナ達はだいぶ大きくなりましたが、まだ親鳥と同じ羽ははえてきていません。これからどんどん色がついてくるはずですから、これも楽しみの一つです。

こうして私にとって一年目の繁殖シーズンが終わったわけですが、振り返って見ると後悔してしまう事がいろいろありました。私がおもっても重要ではないかと思う事は、「タイミング」です。産卵にそなえて、栄養をつけなくてはならないのですが、その餌を与える時期、巣造りに必要な隠れ家を入れてやる時期、卵を取り上げるタイミング等、何をやるにもうまく様子を見ながらタイミングをはからなくてはならないのです。彼らをあまり刺激しない様にまた、スピーディーに何事も行なわなければなりません。刺激は彼らにはストレスとなります。その様なストレスが積み重なって、卵を産まなくなったり、檻の中で暴れてケガをしたり、いろいろなことの原因になります。そのような訳で、餌を与える時や、卵の採集時などは、非常に気を使います。自然ではほとんど人目につかない様に生活している彼らにとって、飼育担当者、つまり私は、単なる外敵でしかないのかもしれませんが、もちろん人に慣れていないキジもいくらかはいますが、まったく慣れてくれないものもいます。慣れてくれないキジはやはり私を不法侵入者とみなし、時には暴れて逃げまくる鳥がいます。また反対に攻撃をしかけてくる親鳥もいます。その代表は、キジの仲間では大型のセイランで、私が餌を与えに行くと、嘴でつつきまくり、自慢の足で、けったりたたいたりの連続攻撃をしてくる。頭の上から攻撃された時には、さすがの私も頭にきました。仕方のない事だとあきらめると同時に、「なーかげんになれてくれたらいいのに……」と思い、一人でブツブツ言っていた事もありました。なかなか警戒心をゆるめてくれませんが、気長に待って少しずつ慣らして、順調に卵を産んでくれる様に、こちらも注意をはらいながら飼育しつつ、また彼らの一大イベント「繁殖」という行動に少しでも役立つよう私自身の努力と、勉強をおしみてこそぞこむつもりです。(飼育課：西田俊広)

## 動物園ニュース

なきごえ25(12) 1989

### § カラフトフクロウ、シロフクロウ来園

10月11日にカラフトフクロウとシロフクロウがそれぞれ1番ずつソビエト連邦のレニングラード動物園から来園しました。

今回の動物交換は大阪市とレニングラード市との姉妹都市提携10周年を記念して行われたものです。天王寺動物園からは去る7月9日に西尾市長らがレニングラード市を訪れた際にニホンザル(オス1頭、メス2頭)とリスザル(オス1頭、メス1頭)を贈っています。

動物の搬送にはレニングラード動物園のウラジミール・F・アンドリュウ・ビン園長が同行され、16日まで日本に滞在されました。12日にはアンドリュウ・ビン園長らの出席のもと動物贈呈式が行われ、フクロウ2種



レニングラード動物園からの動物の贈呈式と共に西尾市長がレニングラード市を訪れた際にハブニングで子供から贈られたハリネズミ2頭もアンドリュウ・ビン園長から伊東園長に手渡されました。

カラフトフクロウはユーラシア大陸と北アメリカ大陸北部の針葉樹林帯に留鳥として生息する大型のフクロウで、シロフクロウは北極圏のツンドラ地帯で繁殖し、冬期にユーラシア大陸、北アメリカを南下する。オスがほとんど白色、メスが白色に黒の斑点の大型のフクロウです。共に天王寺動物園では初めての飼育です。特にカラフトフクロウは日本の動物園には初めての来園と思われる。

### § パタスザルの寄付

10月16日東京都の上野動物園からパタスザルのメスが1頭来園しました。

### 現在の飼育動物数

(平成元年10月31日現在)

哺乳類	12目	102種	455点
鳥類	20目	185種	700点
爬虫類	3目	34種	82点
合計	35目	321種	1237点

パタスザルはアフリカ中部に生息する赤褐色で4肢の長いサルです。天王寺動物園ではオス、メス各1頭を飼育していますが、メスが老齢で繁殖が望めないため、若いメスを捜していたころ、上野動物園のご好意でお譲りいただくことになりました。

来園したメスは上野動物園で昨年の3月26日生まれで、まだ小さくうまくオスと同居できるかどうか心配ですが、10月28日には検疫を終了し見合いを開始しました。

### § 動物絵画コンクールの入賞者決定

4月23日から8月31日まで市内の小・中学生を対象に募集(応募総数252点)しました動物絵画の入賞者32名が決定しました。

大阪市賞には大阪市立玉出小学校1年の酒勾秀和君のマンドリル、建設局長賞には大阪市立北田辺小学校3年の吉村典久君の水牛と大阪市立文の里中学校1年の木本多津さんのペンギン、動物園長賞には大阪市



立文の里中学校1年の河野綾香さんのコアラ、天王寺動物園協会賞には大阪市立弁天小学校1年の蔵内美美さんのキリンの作品がそれぞれ選ばれました。

これらの作品は入選5点、佳作17点の作品とともに10月15日から11月5日まで園内の展示館で展示し、初日の15日には入賞者の表彰式をレクチャールームで行い、それぞれ賞状、メダル、記念品をお渡ししました。

なお、これらの作品は動物交流で11月6日に来園した上海動物園の皆さんにお渡しし、上海市でも展示される予定です。

### ◎ お知らせ

動物のお話とスライドの会

12月10日(日) 動物園この一年

時間：午後1時～2時

場所：北園レクチャールーム

### ◎ テレフォンサービス実施中

催し物、トピックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を24時間テレフォンサービスで行っていますのでご利用ください。

電話番号 771-9999

### \* 休園日のお知らせ \*

動物園の休園日は毎月第3月曜日(休日の場合は翌日)です。2月までの休園日は下記のとおりです。  
12月18日(月)、1月16日(火)、2月19日(月)  
年末年始は、12月29日(金)～1月1日(月)まで休園いたします。  
開園時間は、午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売り止めになります。

愛ある暮らし、応援します。

# Kintetsu

## 近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



### 生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修  
B5変型判・オールカラー  
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、  
自然の中ではどんな暮らしをして  
いるのか？ 動物園での世話  
の仕方は？ 仲間？ など、  
写真と精密イラストをまじえ紹  
介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価580円

### むしくらしかいかた

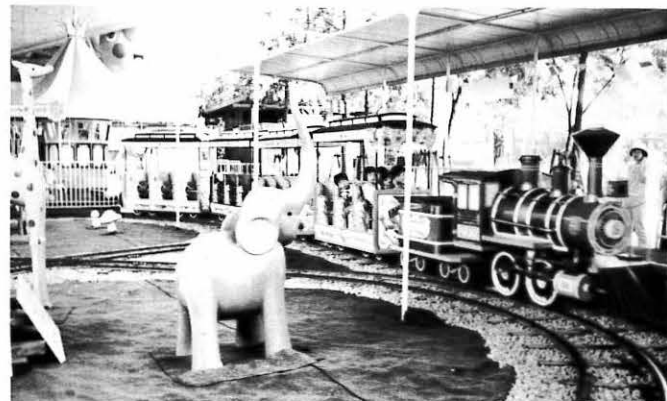
野山でみかける身近な昆虫たち  
250種を紹介。

### ちいさないきものくらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320  
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

## たのしいのりものが待っています。



1人1回  
100円  
(1才まで無料)

団体割引  
(30人以上)  
……1割引

久竹娛樂株式会社  
TEL(06)541-3938(代)

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

## オートフォーカスカメラに

# フジカラー SUPER HG 400

ピントが合いやすいフィルムです



### カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
三番街店 ☎372-5031

平岩米吉著

## 絶賛三版 猫の歴史と奇話

定価・2800円  
送料・310円  
A5判・260頁  
口絵挿画・113図

猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆ 学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本  
☆ 架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

### 主な目次

- |                                     |                                       |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 第一章 猫の歴史<br>欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで | 第二章 猫股伝説<br>老猫化けてさまざまな怪異をなす           |
| 第三章 猫の報恩談<br>蛇を咬んだり、金を運んだりする        | 第四章 野性猫の存在<br>裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡来など |
| 第五章 猫の奇話(上)<br>長命、多産、三毛猫などの形態の奇話    | 第六章 猫の奇話(中)<br>長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動 |
| 第七章 猫の奇話(下)<br>マタタビを媚薬とする奇妙な習性など    | 第八章 益獣としての猫<br>あらゆる角度から猫の生態と効用を探究     |

発行 動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659・振替東京5-9800 発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地 振替・東京4-165425

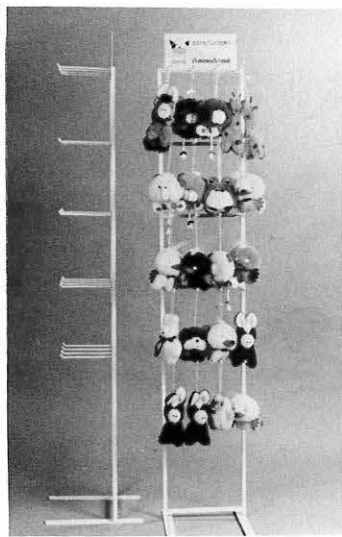
- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」  
①巻・20分(10本常備)
- 対象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申込先/当協会まで、電話かハガキでお申し込み下さい。

## 大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

コアラテレホンカード(限定販売)  
好評発売中 ¥800 (50度用)



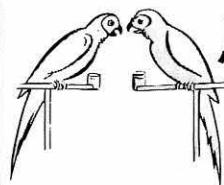


## 動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

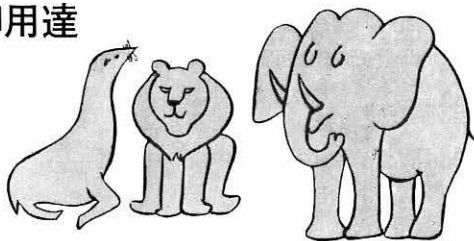
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号  
TEL: (06) 704-8580  
FAX: (06) 704-8565



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

### たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数ヵ所にあります

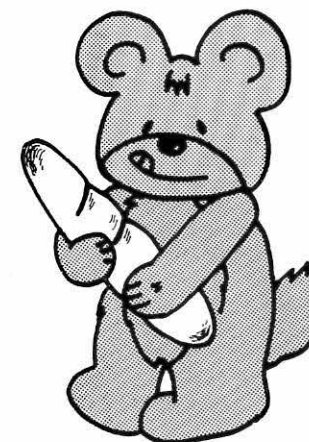
関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

## 動物園内での お食事、ご休憩は

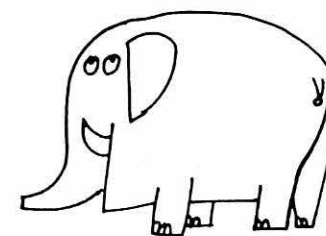
大阪市天王寺動物園内

## 中央売店

☎ (06) 771-0973



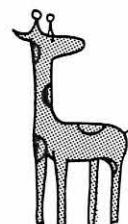
## 天王寺動物園内



## 南園売店

大阪市天王寺区茶臼山町6-74  
電話 (06) 771-7110番

## 園内でのお写真は… 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して  
おりますのでご説明  
に伺いました際は、  
よろしくお願い致し  
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。  
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社  
TEL 06-856-7444





唯ちゃんも、  
とつてもゼリーも、  
ますます成長しました。



浅香 唯

フルーツゼリー  
**とつてもゼリー**



野生動物をみんなで守ろう

**WE SUPPORT WILDLIFE!**

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設



お申込み、お問い合わせは——  
社団法人 大阪市天王寺動物園協会  
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア 商事部  
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。  
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。

●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?  
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 1989年12月10日発行 (毎月10日発行) 第25巻 第12号 (通巻292号)

編集/大阪市天王寺動物園  
発行人/大阪市天王寺動物園協会 橋本一郎  
印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74  
電話 大阪 (06) 771-0201  
振替口座 大阪 37823

編集委員 (伊東重朗 / 藤野勝吉 / 中山良三郎 / 樽本 勲 / 中川哲男 / 齊田 尚 / 宮下 実 / 長瀬健二郎 / 榊原安昭)  
(森本委利 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川 篤 / 赤松 建 / 中垣圭史 / 大川光雄 / 山下賢二 / 土谷正道)